



開講日	講義テーマと概要	担当教員
<第1回> 10月3日(木) 102講義室	『タマゴ』の世界へようこそ 私たちが利用する畜産物のなかで、タマゴ（鶏卵）は最も身近な食材ではないでしょうか。タマゴは私たちに必要な栄養素をバランスよく含んでいる食品であり、私たちの食生活を豊にしてくれます。美味しくて、豊富な栄養を含み、物価の優等生であるタマゴについて、Q & A（一問一答）方式で紹介していきたいと思います。知っているようで知らないタマゴの世界をお楽しみください。	教授 堀口 健一
<第2回> 10月10日(木) 102講義室	「地域定住農業者育成事業の現段階」 2016（平成28）年からスタートした地域定住農業者育成事業も4年目を迎え、主要事業の「食と農のビジネス塾」の受講者は約80名、気軽に集い意見交換・情報交換をする場「庄内アグリユース」には91名が集うようになりました。これまでの取り組みの経過と今後の展開を紹介します。	教授 小沢 亙
<第3回> 10月17日(木) 102講義室	「江戸以前の御来光について」 世界で最初にブロッケン現象に名前をつけたのは、出羽三山の修験者だった？！俳人・松尾芭蕉が奥の細道で出羽三山に修行に入った際の門人、曾良の随行日記に着目し、山岳信仰と歴史について昨年度に引き続き読み解いていきます。 ※ブロッケン現象：高山に登った際、登山者自身の影が太陽を光源にして霧や雲に映る現象。飛行機の影が雲に映ることや、影の周囲に虹のような光の輪が現れることがある。	客員教授 前田 直己
<第4回> 10月24日(木) 102講義室	「ICT技術を活用した近未来の稲作生産システムの開発」 稲作の現状の実態（課題）を知り、昔からの変化を知り、近未来の農業を考え、必要な準備をすることが重要です。本講義では、最新のICT技術を利用した稲作生産システムの開発についてお話しします。	教授 藤井 弘志
<第5回> 10月31日(木) 102講義室	「キメラのはなし」 私たち人間の体に含まれる細胞は、基本的に全て同一の遺伝情報を持っています。これは植物においても同様ですが、時に遺伝情報が異なる細胞が複数種混在して植物体が成立することがあり、これをキメラと呼びます。本講義ではキメラの成り立ち、身の回りにおけるキメラ、見分け方を解説します。	助教 鍋島 朋之